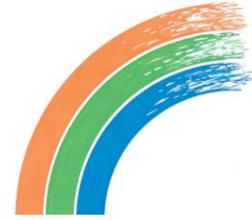


越谷市制  
施行  
50周年



歩みついで半世紀 さに飛躍の半世紀  
越谷市制  周年  
KOSHIGAYA

越谷市



## INDEX

第1章	越谷今昔物語	4
第2章	あの頃、あの時、懐かしの写真集	12
第3章	越谷50年の歩み	22
	古代	24
	中世	25
	近世	26
	近代	27
	昭和30年代	28
	昭和40年代	32
	昭和50年代	36
	昭和60年～平成6年	40
	平成7年～平成20年	44
	道路整備	48
	鉄道整備	50
	治水対策	52
	環境	54
	コミュニティ・市民参加	56
	産業	58
	医療・保健	60
	福祉	62
	消防	64
	教育・文化・スポーツ	66
	国際交流	68
	防災・防犯・危機管理	70
第4章	越谷の観光案内	72
	春・夏	74
	秋・冬	76
	文化財・史跡	78
	越谷の地名	80
	いつまでも残したい風景	96
	いつまでも残したい自然	
	植物	98
	生きもの	100
	伝統工芸	102
	越谷の民話	108
第5章	越谷ゆかりの著名人	112
第6章	子どもたちに託す未来の越谷	120
第7章	越谷もの知りページ	130
資料	データからみた越谷市の推移	132

## 市制施行50周年を祝して

越谷市議会議長

小林 仰



越谷市制施行50周年、誠におめでとうございます。この記念すべき慶事を、32万市民の皆様とともにお祝いできることを大変喜ばしく思います。

本市は昭和33年11月に市制を施行し、今年で半世紀になりますが、古くから「水郷こしがや」として親しまれており、水と緑豊かな自然環境と調和したまちづくりが着実に進められてきました。そして、この節目の年に、本市の新しい顔となる越谷レイクタウンも誕生し、県南東部地域の中核都市として、さらに大きな飛躍を遂げてまいります。

今日の発展の陰には、まちづくりに向けた先人たちのたゆまない努力と情熱があったからこそと考えており、ここに改めて感謝を申し上げます。そして、今後とも新しい時代にふさわしい越谷市の発展のために、一層のご協力を賜りますように念願する次第であります。

近年、地方分権に向けた動きが活発になる中で、地方財政の確立や市民福祉の充実を図るためにも地方議会の果たす役割はますます重要になっていきます。本市議会も今年50周年を迎えるわけですが、市民の負託に応えるべく更なる努力を重ねてまいれる所存です。引き続き市民皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

このたび発刊されます記念誌は、50周年を機に、今日の越谷を築かれた先人たちの偉業に思いを馳せ、将来のまちづくりへの決意を新たにすべく、大変意義深いものであると考えております。編集委員の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます、お祝いの言葉といたします。

## 市制施行50周年

## 市民との協働で新時代を築く



越谷市長 板川 文夫

越谷市は、本年、市制施行50周年という記念すべき年を迎えました。昭和29年11月に越谷地区の2町8カ村が合併し越谷町となり、その3年後の昭和33年11月3日に、県下で22番目、全国で543番目に市制が施行され「越谷市」が誕生しました。わたしたちの郷土は、豊かな水と緑に恵まれ、古くから「水郷こしがや」として親しまれてきました。江戸時代には日光街道第三の宿場町としてにぎわいをみせ、今もその名残をとどめるなど、豊かな自然と歴史が融合したまちです。

市制施行当時、人口4万8318人だった本市は、昭和40年代以降人口が急増し、首都近郊の住宅都市へと大きく変容してまいりました。現在、県南東部地域の中核都市へと発展したのも、先人たちの熱意と努力のたまものであると確信しております。さらに、本年3月には、JRW蔵野線の越谷レイクタウン駅が開業し、広大な調節池を中心に良好な住宅地や大規模商業施設が集積した親水文化創造都市が誕生しました。

今後、越谷市がさらなる発展を遂げるためには、32万市民の皆様のご協力が不可欠です。現在、そして将来にわたって市民の皆様が、「越谷に暮らしてよかった」と実感できるまちを築くため、今後も市民との協働によるまちづくりを推進してまいります。

このたび、先人の築き上げてきたこれまでの歩みを中心に記念誌を編集発行しました。編集委員の皆様のご尽力にあらためて感謝申し上げますとともに、この記念誌を手にとっていただいた皆様へ、ふるさと越谷に一層理解を深め、愛着を持っていただければ幸いです。

## 市民とともに歩んだ半世紀

## 市民全員で市制施行50周年を祝う

越谷市制施行50周年記念事業推進市民委員会委員長

青木 並五郎



越谷市制施行50周年を心からお祝い申し上げます。越谷市は、昭和33年11月に人口4万8318人のまちとして産声を上げました。

それまで、旧日光街道沿いに形成されていた市街地も、交通の発達により大きく変貌してまいりました。特に、東武鉄道伊勢崎線への地下鉄日比谷線の相互乗り入れを契機に人口が急増し、旧住民と新住民との交流がまちの課題となり、自治会やスポーツ・レクリエーション活動を通じて交流を深めてまいりました。

その後も、市民と行政が連携を図りながらまちの発展に尽力してきたところでございます。越谷市の市制施行からの50年はまさしく市民とともに歩んできた歴史そのものでございます。

そのような中、市制施行50周年を市民全員でお祝いするため、平成19年8月に「越谷市制施行50周年記念事業推進市民委員会」を組織いたしました。市民委員会は、多くの市民の参加により、行政および市内のさまざまな団体と連携し、記念事業を企画・運営することを目的に設置いたしました。

このたび、編集発行いたしましたこの記念誌も市民委員会の記念誌作成部会が中心となり作業を進めたものでございます。編集に当たりましては、市民の皆様から昔のたいへん貴重な写真や市内の小学生から未来の越谷を描いた絵画、中学生から作文を提供いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

結びに、越谷市の益々の発展をご祈念申し上げますとともに、この記念誌が越谷市を理解する一助となれば幸いです。

# 第1章 越谷 今昔物語



現在

東武鉄道開通当初は、停車場誘致に積極的でなかった越ヶ谷町も、その後、商工業者を中心とした町民の間から、産業の振興や町の発展には、交通運輸の要ともいえる停車場の設置が必要であるとの要望が高まり、大正9年（1920）4月に駅が設置されました。昭和33年（1958）には、市制が施行され、人口の急激な増加とともに乗降客が増えていきました。高架複々線化され、輸送力の増強が図られ、駅周辺の整備も進められました。

## 越谷駅



昭和30年代初期



昭和30年

## 武州大沢駅 （現在の北越谷駅）

開設当初は、越ヶ谷停車場の駅名でしたが、大正9年（1920）に越ヶ谷町に駅が設置されたことにより、「武州大沢駅」に改称されました。昭和31年（1956）には武州大沢駅から浅草行き折り返し運転が開始され「北越谷駅」に改称されました。昭和37年5月の地下鉄日比谷線の相互乗り入れの開始にあわせ、東武鉄道伊勢崎線で初の橋上駅に改修されました。

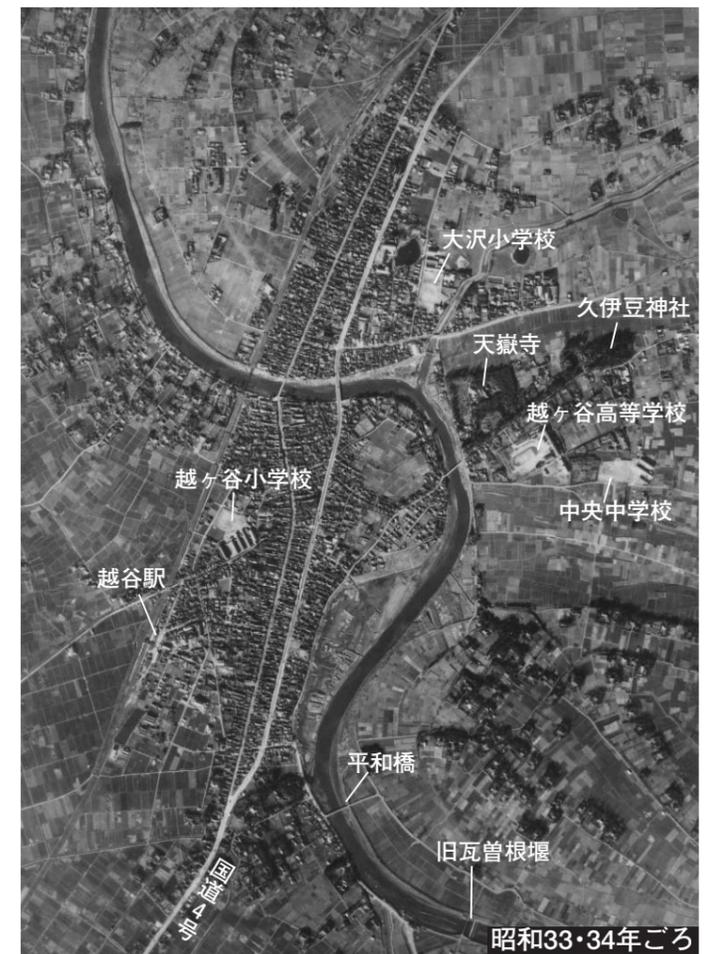


現在

昭和33年（1958）の市制施行当時、市の人口は4万8318人でした。空から見た様子も農地が広がり、旧日光街道沿いに市街地が形成されています。この50年間で人口は6・6倍になった反面、面積に占める農地割合は約70%から約30%に減少しています。



現在



昭和33・34年ごろ

## 上空から見た越谷市の変遷

# 蒲生駅

明治32年（1899）12月に通称三軒家（現在の南越谷一丁目辺り）に開設されましたが、のち現在の場所に移されました。平成20年（2008）3月、蒲生駅東口線の開通により東口にもロータリーが整備されました。



昭和30年ごろ



現在



昭和37年

# 大袋駅

大正15年（1926）10月に開設されました。市内を通る東武鉄道伊勢崎線の駅で西口に改札口のない唯一の駅ですが、大袋西口線の道路整備とあわせて平成22年度に西口ロータリーが整備され、改札口ができる予定です。



現在

# 新越谷駅

昭和48年（1973）4月、新松戸駅から府中本町駅まで国鉄（現在のJR）武蔵野線が開通しました。南北鉄道ばかりであった県内に、東西を結ぶ大動脈が誕生しました。この武蔵野線の開通後の昭和49年7月に東武鉄道伊勢崎線との連絡駅である新越谷駅が誕生し、東西南北の交通の要所となりました。これにより駅周辺は商業地として飛躍的に発展しました。平成19年度には、新越谷駅、南越谷駅とも1日6万人を越える乗降客がありました。



昭和49年



現在

# せんげん台駅

昭和41年（1966）に入居が始まった春日部市の武里団地6200戸の住民の交通を確保するため、昭和42年にせんげん台駅が上間久里地内に橋上駅として開設されました。駅名は、駅の近くを流れる千間堀にちなんで名付けられました。



昭和42年



現在

# 旧日光街道



昭和33年ごろ 中町・越ヶ谷三丁目



現在

慶長7年（1602）、江戸を中心にした五街道のひとつとして奥州街道が指定されました。現在は、日光街道と呼ばれ市内を南北に貫通し、重要な幹線道路として多くの往来があります。この日光街道は明治時代になると一等道路に指定され、大正9年（1920）には、国道4号と改められました。昭和7年（1932）から拡幅整備が進められ、拡幅の難しい市街地は避けて新道が整備されました。

# 国道4号 草加バイパス の開通

国道4号（現在の県道足立越谷線）の交通量や事故の増加に対処するため、当時の建設省は昭和39年（1964）度から総工費約50億円の予算で草加バイパスの建設に着手し、昭和42年4月に、足立区保木間から市内上間久里まで下り2車線が開通し、12月に全面開通となりました。



現在



昭和42年 神明町二丁目・南荻島付近。後方は西中学校

# 新平和橋と平和橋

市役所わきの元荒川に架かる新平和橋と葛西用水に架かる平和橋は、つながって一つ一つの橋のように見えます。昭和35年（1960）から始まった元荒川と葛西用水の用排水分離工事により、現在の位置より下流に架かっていた旧平和橋の架け替えとして建設されました。ちなみに、旧平和橋は昭和20年代の前半に架けられた木製の橋で、それ以前は瓦葺根橋と呼ばれた木橋が架かっていました。



現在



昭和42年

# 寺橋わきの水練場 （宮前橋付近）



昭和32年

越ヶ谷の久伊豆神社参道前の寺橋わきの水練場（水泳場）では子どもたちが元気に泳ぐ姿が夏の風物詩となっていました。  
この水練場は、プールがなかった時代に子どもたちが水泳を楽しんでもらおうと青年団が設けたもので、話を聞いて岩槻や春日部からも子どもたちが訪れていました。  
この水練場は昭和35年（1960）まで続けられていました。



現在

# 国体の開催



昭和42年

越谷市では、第22回と第59回の国民体育大会が開催されました。昭和42年（1967）に開催された第22回大会では、秋季大会でバドミントン競技が行われ、昭和天皇、皇后両陛下が会場を訪れ試合をご観戦されました。平成16年（2004）に開催された第59回大会では、夏季大会で成年女子サッカー、秋季大会では、バレーボール（成年男子6人制）、軟式野球（成年）が行われました。また、この大会では選手の民泊が行われ市民との協働による国体開催となりました。



平成16年

# 越ヶ谷秋まつり (越ヶ谷地区の旧日光街道周辺)

江戸時代中期から伝わる豊年を祝う祭りで、おおむね3年に1度行われます。古い伝統と格式があり、江戸時代の名残をそのまま伝える歴史絵巻を見るようです。祭りは久伊豆神社から神様がお出ましになる神輿渡御で始まり、到着した神輿は各町内の山車8台に迎えられ町内を巡回します。



現在



昭和33年

# 見田方遺跡公園 (越谷レイクタウン地区)

平成20年(2008)3月に開設した越谷レイクタウン駅の北側には見田方遺跡公園が広がります。昭和41年(1966)から42年にかけて遺跡の発掘調査が実施され、住居跡から土器や勾玉などが出土しました。この地区では、新たなまちづくりが進められ、2万2400人が住むまち「越谷レイクタウン」が誕生しました。



現在



昭和41年

# 久伊豆神社(越ヶ谷)



昭和31年



現在

越ヶ谷の久伊豆神社の創建された年代は不明ですが、「吾妻鏡」の建久5年(1194)6月の条に、武蔵国大河土御厨において久伊豆宮神人と喧嘩出来の由、との記述があり、この久伊豆宮とは当社を指しているとの説もあります。この久伊豆宮については、武蔵七党のうち私市党あるいは野与党の氏神ともいわれています。

# 区画整理



昭和40年 北越谷駅西口



現在

人口の増加による無秩序な開発を防ぎ良好な都市基盤を整備するため、積極的に土地区画整理事業が施行されています。昭和36年(1961)に市内で最初に区画整理事業が始まった北越谷地区では、道路や公園、北越谷駅西口駅前広場の整備を行うとともに、良好な住宅地の整備が行われました。